さいたま市議団ニュース
日本共産党
No.955
2022.4.3

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811　FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/
発行　とりうみ敏行　神田よしゆき
松村　としお　とば　めぐみ
久保　みき　たけこし　連
金子　あきよ

保健所体制は不十分 さらなる強化求める

予算委員会 保健福祉

2月28日、予算委員会の保健福祉委員会関連の審査がおこなわれ、松村としお市議が新型コロナ対策等についてとりあげました。

コロナ感染の第6波が急速に拡大したことで2月初旬のピーク時には「保健所から何も連絡がない」と相談が多数寄せられました。党市議団はこれまでも保健師の増員を求め、2021年度は12人増えましたが、それでも保健所が機能不全に陥りました。松村市議はさらなる人員増を求めましたが、市は「今の体制を継続したいが、今後の対応は感染状況に応じて考えたい」と答弁。明確な体制強化の方針は示されませんでした。

その後、3月11日の保健福祉委員会でコロナ対応報告がされ、松村市議は「保健所から感染者への連絡に時間がかかった。常時の体制に不十分さがあった」と指摘。市は「第6波の検証を今後進める。常時の体制を含めて検討していきたい」と答弁しました。党市議団は保健所を2カ所に増設するよう提案していますが、引き続き体制強化を求めます。

続いて松村市議は、障がい者グループホーム運営費補助充実と整備費補助の創設も求めました。市は「重度障がい者の受け入れ人数に応じた補助金の要望がある」として「整備費補助創設など支援拡充について実態把握し調査研究したい」と答弁しました。

また、児童相談所の夜間相談対応の一部民間委託についても質問。職員の増員で対応できること、資格も求めず相談体制に切れ目を持ち込むものであることが明らかになり、反対しました。

収支率だけで コミバス継続・廃止を決めるな

予算委員会 まちづくり

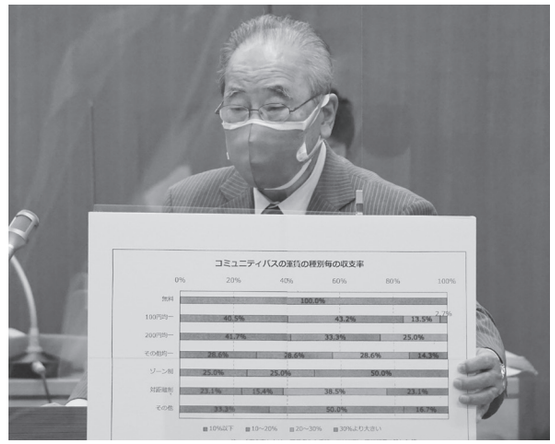
3月1日、予算委員会のまちづくり委員会関連の審査がおこなわれ、とりうみ敏行市議が質問をおこない、コミュニティバス（以下、コミバス）についてとりあげました。

さいたま市のコミバスガイドラインでは「収支率40%の確保」が、そのコースの継続、廃止、改善の評価に使われています。とりうみ市議は、その危険性について「行政が公共交通サービスをおこなう理由について、利益を目的とする民間では担えない事業である」と指摘したうえで、次のような質疑をおこないました。

とりうみ　そもそも公共交通サービスの収支率は、高くなりにくい性質を持っているという認識はあるか。

市　収支率はもともと赤字補填をするようなしくみ。一定の公費負担をしてきた。利用者の低減ということで言えば、路線バスと同等の運賃で決して高くない。

とりうみ　公費負担は当然であり、それが低いことが問題。国土交通省中部運輸局の調査では、本市と同様の対距離制で運行している7割強が収支率30%以下で運行している。収支率が40%に満たないのは本市だけではないではないか。



市　今後ガイドラインの見直しのなかで議論する。

とりうみ　収支率の評価だけで事業継続、廃止を決めるのは危険。「地域特性」「交通特性」「利用者特性」などの評価を切り捨てていいのか。

市　社会情勢が変われば評価の基準も変わる。しっかり議論を詰める。

とりうみ市議は「収支率が上がらない責任を利用者に転嫁することは許されない。民間バス会社への支援も必要である」と強く求めました。

安心して働ける人員体制確保を

予算･企業会計（市立病院）

３月３日、予算委員会の企業会計（市立病院）の審査がおこなわれ、金子あきよ市議が質問をおこないました。

はじめに、自治労連さいたま市職分会が実施した職場アンケートに寄せられた病院職員の声を引用しながら①新型コロナ患者の受け入れ、感染防止のため業務量が増大し、多忙②勤務時間が長くなり、時間外勤務も増えている③人員が足りずまともに休暇を取ることができない④コロナに対応しているかどうかで手当に差がつくことや手当が少ないことに対する不公平感、不満が大きいといった実態があることを指摘しました。

市立病院からは「業務量が増えていることは間違いない。病棟を休床して看護師を捻出している。中途採用や会計年度任用職員の任用など、マンパワーの確保にも努めてきた」との答弁がありました。

さらに金子市議は、働く人が安心できる人員体制を確保していくことが大切だとして、職員充足率の状況と職員定数の改善計画について質しました。「充足率は医師85.2%、看護職員101%、医療技術員98.8%、事務職員等95.7%。看護職員は今年度５回の中途採用で対応してきた。新年度は医師５名、看護師50名程度、医療技術員５名程度の増員を予定している」との状況が確認できました。

下水道の誤接調査 計画的にすすめよ

予算･企業会計（上下水道）

３月３日、予算委員会で企業会計（上・下水道）関連の審査がおこなわれ、神田よしゆき市議が質問しました。

神田　下水道の誤接の問題について、最近のとりくみを確認したい。誤接の調査をどのように決めているのか。計画的におこなっている件数と住民からの要望にもとづく件数についてそれぞれうかがう。

下水道維持管理課長　過去の調査の実績では2021年度計画的におこなっている地区が２地区、住民要望にもとづくものが４地区。

神田　2022年度の予算額は。

下水道維持管理課長　合計で3600万円。

神田　予算額が少ない。もっと予算をつけて、大規模に調査をおこなうべきではないか。

下水道維持管理課長　誤接の調査はネガティブな作業で、協力を得られにくい業務であるため、難しい。

神田　あまりネガティブに考えない方がいい。積極的にすすめる方が地域の環境を守っていくうえで重要。ぜひ検討すべき。

この他に、受益者負担金の減額、水道事業の財務状況、コロナ対策として水道料金の引き下げも求めました。

さいたま市議会

議員定数見直しの議論すすむ

2020年10月の国勢調査の確定値で、さいたま市の人口は132万2459人となりました。これを受け、市議会で議員定数の見直し議論が進んでいます。

2008年９月議会において、「議員１人あたりの人口は概ね２万人程度が妥当」として、議員提出で議員定数削減条例が提案され、定数が64人から60名へ減りました（党市議団は反対）。当時のさいたま市の人口は約120万人だったため60名でしたが、現在の人口（132万人）と照らすと、60名では足りないことになります。

党市議団はかねてから、人口規模にふさわしい定数とすることを求めてきましたが、今回の見直しにあたっては、特に人口規模に見合わない、アンバランスが生じている行政区の定数を改善することを求めています。今後設立される予定の第３者機関に諮問され、定数問題が議論されることになります。

あなたの身近な議員です

市議（浦和区）
とりうみ敏行

市議（緑区）
松村としお

市議（桜区）
久保　みき

市議（南区）
金子あきよ

市議（北区）
神田よしゆき

市議（見沼区）
とばめぐみ

市議（中央区）
たけこし連